

不妊治療等助成事業（概要版）

治療費

公費負担7/10

自己負担
3/10

対象の治療費5万円まで

<助成回数>

女性の年齢	夫婦への助成回数※
40歳未満	1子ごとに6回まで
43歳未満	1子ごとに3回まで
43歳以上	対象外

※男性への助成を含む

交通費

公費負担2/3

自己負担1/3

補助基準額の上限

距離区分	往復
25km以内	対象外
25km～50km	1,430円
50km～75km	2,450円
...	...
75km～	10,180円

※「距離区分」は、自宅から医療機関までの距離
GoogleMapなどで計測

※1回の治療とは、治療開始日から妊娠確認もしくは治療終了までの期間です。

<助成回数>

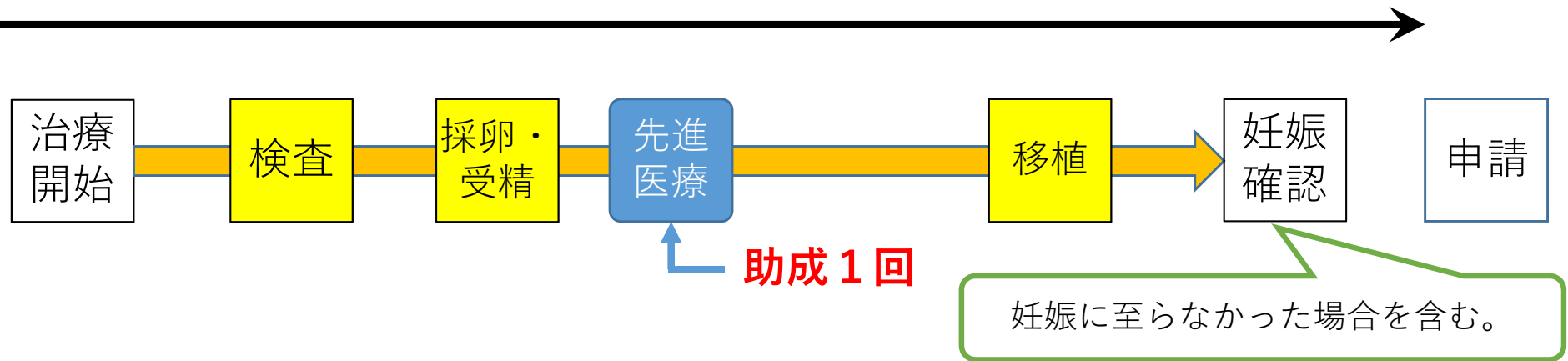
1回の治療に対して5回まで

不妊治療費助成事業（概要版）

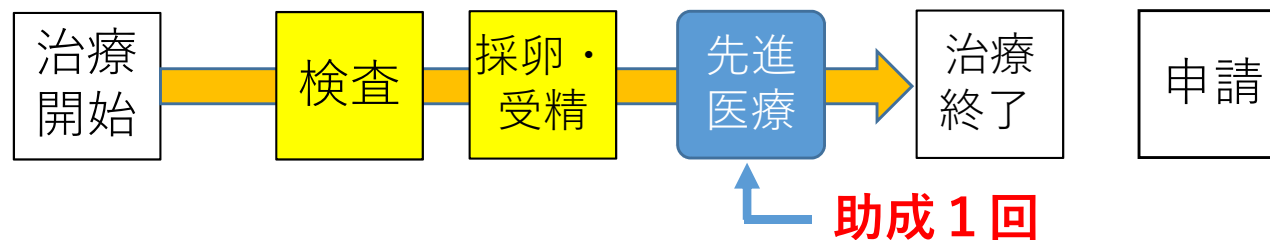
助成対象の回数の考え方の例

R5.4.1

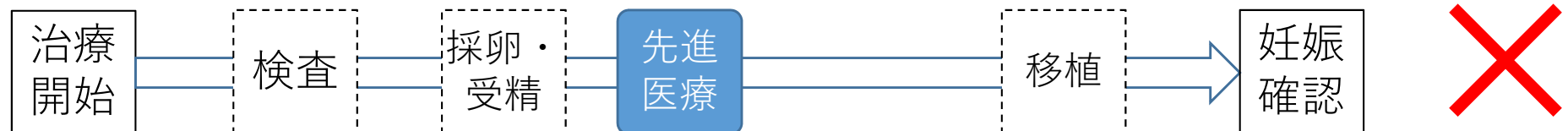
■：保険診療
■：先進医療
□：自費診療



※医師の判断等により治療を終了した場合

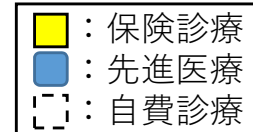


※保険診療が適用されない場合



不妊治療費助成事業（概要版）

助成対象の回数の考え方の例



R5.4.1

※移植に至るまで複数の先進医療を実施する場合



先進医療を複数回実施した場合は
かかった費用を合算して申請する。

※交通費の助成もある場合

4回受診



2回分の治療費を合算

1回の申請で
先進医療の治療費（2回分）＋交通費（4回分）を申請する

交通費の補助上限単価表

距離区分 (自宅から医療機関まで)	助成上限単価 (往復)
25kmを超えて50kmまで	1,430円
50kmを超えて75kmまで	2,450円
75kmを超えて100kmまで	3,200円
100kmを超えて125kmまで	4,520円
125kmを超えて150kmまで	5,150円
150kmを超えて175kmまで	5,880円
175kmを超えて200kmまで	6,720円
200kmを超えて225 k mまで	8,080円
225kmを超えて250kmまで	8,820円
250kmを超えて275kmまで	9,550円
275kmを超える	10,180円

※自宅から医療機関までの距離が、片道25km以内の方は助成対象外。

※かかった交通費（往復分）が助成上限単価より低い場合は、その金額を基準に算定する。

申請技術名	技術の概要	道内での実施
PICSI	ヒアルロン酸を含有する培地を用いて、成熟精子の選択を行う技術。	○
タイムラプス	培養器に内蔵されたカメラによって、胚培養中の胚を一定間隔で自動撮影し、培養器から取り出すことなく、正確な胚の評価が可能となる技術。	○
子宮内細菌叢検査 (EMMA/ALICE)	子宮内の細菌叢が、正常であるのか、異常であるのか、またその菌の種類の組成を判断する検査。	○
SEET法	胚培養液を胚移植数日前に子宮に注入し、受精卵の着床に適した環境を作り出す技術。	○
子宮内膜受容能検査 (ERA)	子宮内膜を採取し、次世代シーケンサーを用いて遺伝子の発現を解析し、内膜組織が着床に適した状態であるのかを評価する検査。	○
子宮内膜スクラッチ	胚移植を行う予定の前周期に子宮内膜のスクラッチ（局所内膜損傷を与える）を行い、翌周期に胚移植を行う技術。	○
IMSI	強拡大の顕微鏡を用いて、成熟精子の選択を行う技術。	○
子宮内フローラ検査	子宮内の細菌叢が、正常であるのか、異常であるのか、またその菌の種類の組成を判断する検査。	○
子宮内膜受容期検査 (ERPeak)	子宮内膜を採取し、RT-qPCRを用いて遺伝子の発現を解析し、内膜組織が着床に適した状態であるのかを評価する検査。	○
二段階胚移植法	先行して初期胚を移植し、後日、継続培養を行った別の胚盤胞を移植する技術。	○
マイクロ流体技術を用いた精子選別	特殊な膜構造を用いて、成熟精子の選択を行う技術。	○
反復着床不全に対する投薬 (タクロリムス)	反復着床不全に対して、免疫抑制剤（タクロリムス）の投与を行う技術。	
着床前肺異数性検査 (PGT-A)	胚から一部の細胞を採取して染色体の量の解析を行い、染色体数が正常な胚を選択する技術	